

指導資料



鹿児島県総合教育センター

英語 第63号

- 中学校，特別支援学校対象 -

平成19年5月発行

基礎・基本の定着を図る中学校英語科学習指導の充実

- 平成18年度「基礎・基本」定着度調査の結果を踏まえた指導法の工夫 -

鹿児島県教育委員会では平成16，17年度に引き続き，平成18年度「基礎・基本」定着度調査（以下「今回」という。）を実施した。この調査は，学習指導要領が示す基礎的・基本的な内容のうち，「読み・書き・算」等の基礎学力について県全体の実態を把握するとともに，各学校の課題を明確にし，生徒の個に応じたきめ細かな指導方法の改善に資するなど，基礎・基本の確実な定着を図ることを目的として実施されている。

今回も，平成16，17年度「基礎・基本」定着度調査（以下「前回」「前々回」という。）と同様に，中学校第1学年及び第2学年で国語，社会，数学，理科，英語について，両学年ともすべての生徒を対象に実施した。

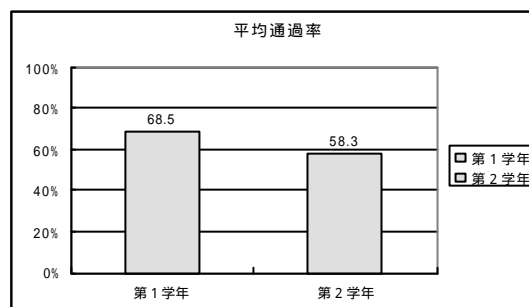
そこで，本稿では今回の英語科の結果について前回，前々回の結果と比較しながら分析・考察するとともに，基礎・基本の確実な定着を目指す英語科学習指導法の工夫改善について述べる。

1 定着度調査の結果と考察

(1) 平均通過率と正答数の分布の割合

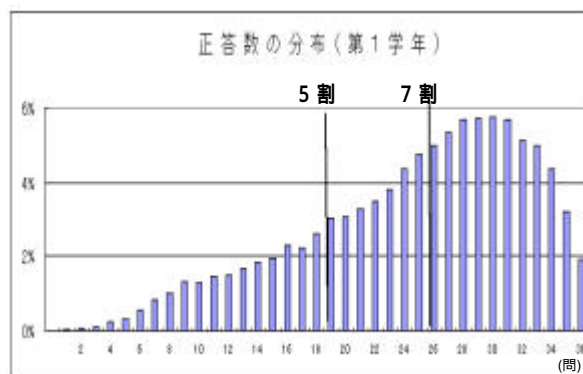
問題構成はほぼこれまでどおりであり，比較のための類似問題も出題されている。

しかし，「書くこと」の問題で採点の観点を増やしたため，これまでの結果との数値だけによる単純な比較はできない。ここでは，今回の平均通過率を以下に示す。

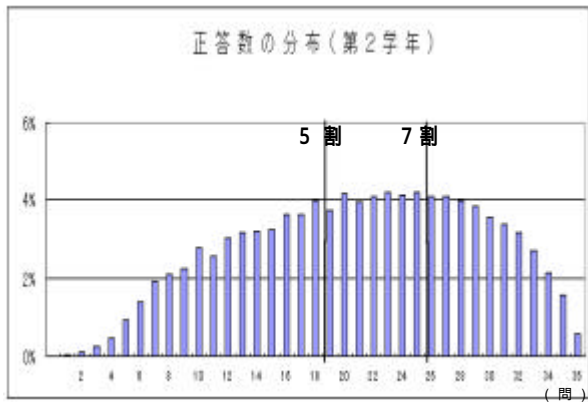


第1学年は基礎・基本が定着しつつあるが，まだ十分な状況とは言えない。また，第2学年は平均通過率が60%に達しておらず，定着へ向けた取組が一層求められる。

次に基礎・基本の定着状況を見ると，各受検者の設問の正答数の分布から第1学年の分布では，ピークが7割ラインの右側にきており，あるべき姿となっている。

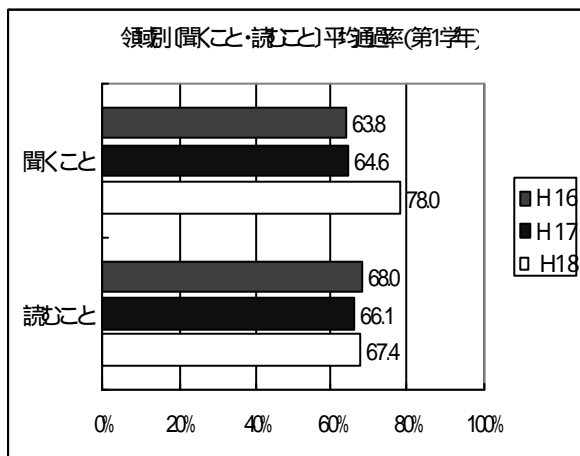


しかし、一方では、正答数5割以下の割合が20%を超えており、定着状況の二極化が見られる。



第2学年の分布においては、正答数5割以下の割合が40%近くを超えている状況であることから、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る必要がある。

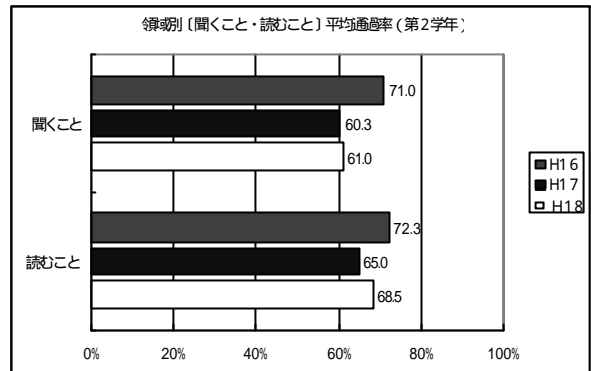
(2) 領域別の平均通過率



領域別の平均通過率をこれまでとの比較から見てみる。第1学年の「聞くこと」においては、前回、前々回と比べると10%以上高くなっている。設問ごとでは、「詳細理解問題」(大問2)の通過率が前回の44.0%から83.8%へ上がっている。

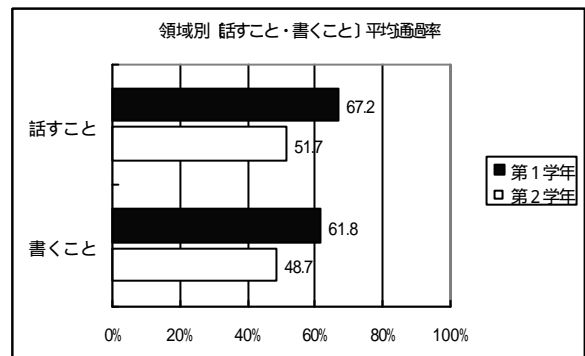
「読むこと」においては、前回、前々回とほぼ同様の通過率である。

第2学年の「聞くこと」においては、前



回と同様の通過率であるが、「詳細理解問題」(大問3)が前回の65.0%から49.8%に、「概要・要点理解問題」(大問4)が前回の84.1%から76.3%に下がっている。

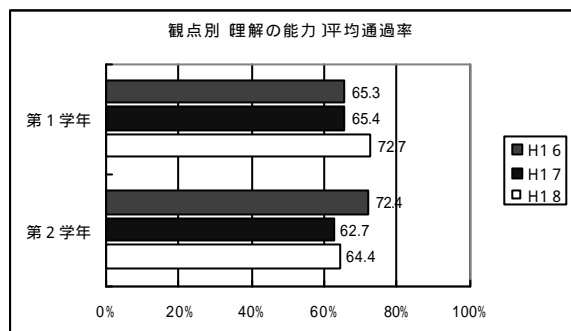
「読むこと」においては、前回とほぼ同様の通過率である。



「話すこと」については、第1・2学年とも「聞くこと」と「書くこと」の設問から間接的にみた結果である。学年間の差が見られ、第2学年では第1学年より10%以上通過率が低くなっている。

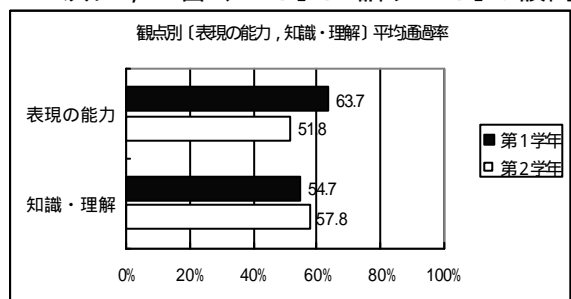
「書くこと」についても第1学年から第2学年に上がると、平均通過率が低くなっている。今回は「トピック指定問題」(大問11)において正確性と伝達性の二つの観点から採点しているが、伝達する意思はあるものの、正確性に欠けていたり、3文以上の英文を書く条件で、最後の文の通過率が低くなったりしている。

(3) 観点別の平均通過率



「聞くこと」と「読むこと」の設問からみた「理解の能力」について、これまでとの比較で見ると、第1学年では前回、前々回よりも定着度が高くなっている。これは「聞くこと」の「詳細理解問題」(大問2)の通過率が、前回の44.0%から83.8%に上がっていることが一つの要因となっている。しかし、第2学年においては、前回と同様の通過率となっている。

次に、「書くこと」と「話すこと」の設問



からみた「表現の能力」については、学年が上がると通過率が低くなっている。これは、「日本語を適切な英語に直す問題」で、第1学年(大問9)が54.7%、第2学年(大問10)は42.5%の通過率であり、「トピック指定問題」では、第1学年(大問10)が71.9%であるのに対し、第2学年(大問11)は49.1%の通過率となっていることが原因の一つとして挙げられる。

また、「言語や文化についての知識・理

解」については、第1学年、第2学年ともに60%に満たない低い通過率となっている。第1学年において、基本的な表現として出題された How are you? の並べ替え問題も前回の67.0%が、今回66.0%の通過率であり、また Listen to the music.の並び替え問題の通過率も63.6%という状況である。

(4) 考察

前回、前々回同様、基礎・基本の定着へ向けてより一層の取組が求められる状況にある。中でも学年が上がると一層定着が難しくなっていること、さらに、定着状況に個人差が見られることから、こうした点に着目した指導の工夫改善が求められる。

また、定着状況を領域別、観点別の結果から見たとき、「表現の能力」、特に「書くこと」の領域の通過率が、他の領域に比べ低いことが大きな特徴として挙げられる。これは、前回、前々回と同じ傾向であり、「書くこと」の指導方法の工夫改善へ向けた具体的な取組が必要である。特に、第2学年の通過率が50%を下回っていることを考えると、第1学年からの学習段階を考慮した指導が必要である。

2 結果を踏まえた改善策

以上のような定着度調査の結果から、基礎・基本を定着させるための英語科学習指導法の改善の主な視点を、次の2点から述べることにする。

英語をコミュニケーションの手段として活用する活動を積み重ねる。

明確な目標設定と目標達成に向けた取組を行う。

(1) 英語をコミュニケーションの手段として活用する活動

英語で話しかけられたことに対して適切に応答する「聞くこと」の設問で、平均通過率が低い問題があった。

① (3) (通過率 54.4%)

英語で話しかけます。話しかけに対して、どのように答えますか。最も適当な答え方をア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

[1 年]

(テープ音声)

Is Yuki yoursister?

ア Yes, I am. I'm fine.

イ No, she isn't. She's my friend.

ウ No, she doesn't. She's OK.

エ No, I'm not. It's me.

① (2) (通過率 36.5%)

[2 年]

(テープ音声)

You went to Disneyland. Did you like it?

ア That's right.

イ Yes, very much.

ウ No, thank you.

エ Yes, you did.

また、「言語使用に関する知識理解問題」で、会話中の空いている部分に文脈から判断してふさわしい英文を選ぶ設問において、平均通過率が低くなっている状況が見られた。

⑦ (3) (通過率 31.9%)

次の対話が成立するように、()の中に入る最も適当な英文を、ア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

[1 年]

A: What do you have in your bag?

B: ()

ア Yes. I have a bag.

イ It's your bag.

ウ Yes, I do.

エ I have many books.

これらの設問は、英語による日常的な会話や簡単な情報の交換などの基礎的・実践的なコミュニケーション能力についてみるものである。

そこで、指導においては、実際に英語をコミュニケーションの手段として使用する活動を授業に位置付け、繰り返し学ばせ、習熟を図っていくことが大切である。特に、「聞くこと」や「話すこと」の音声によるコミュニケーション能力の育成に重点を置くという観点から、まず十分な音声によるインプットを行い、生徒が自ら考え自分のものにする過程を大切にしたい。その後、定着を図る様々な練習を行い、正確に表現する機会を設けることが必要である。

その指導の工夫例として次のようなことが考えられる。

【言語活動の展開の工夫例】

〔 Presentation 〕

- ・ JTE と ALT の新出文型を使った表現の対話を聞かせる。
- ・ picture chart 等を活用し、オーラルインタラクションにより、本文の概要を大まかに把握させる。

〔 Comprehension 〕

- ・ 内容について理解しているか英語や日本語を用いて確認する。
理解が不十分な場合、説明を加えたり、重要表現をノートに書かせたりするなどの個に応じた手だてを行う。

〔 Practice 〕

- 本文の音読をする。

運用できる英語を身に付けさせるために、様々なバリエーションで興味をもたせながら、繰り返し練習させる。

(例：Pair Reading, Read and Look up, Overlapping, Shadowing など)

練習がうまくいかない場合、もう一度理解の段階に戻って理解させる。

〔 Use 〕

- 習った表現、語句などを使って、自分の言葉として自己表現させる。その後、自分の考えや作品などを発表させる。また、授業の終末段階において、発表作品のいくつかを取り上げ、本時の学習のまとめとして繰り返しノートに書かせ重要表現の定着を図る。

(2) 明確な目標設定と目標達成へ向けた取組

この「文構造理解問題」では、会話文の中にある英文の単語を正しく並べ替える設問において、平均通過率が低かった。

8 (2) (通過率 33.7%)
()に適する英文になるように、
[]内の語を並べ替えなさい。

[1年]

A: Your car is nice.

B: Thank you. But ().

[ア not イ new ウ is エ it]

9 (5) (通過率 29.4%)
[2年]

A: () lunch yesterday ?

B: At one o'clock.

[ア you イ what ウ did
エ have オ time]

この設問は、基本的な文型の語順の定着をみるものであるが、不十分な定着状況である。クラスルーム・イングリッシュの使用やALTの活用、生徒同士の英語でのイン

タラクションにおいて、生徒が積極的に英語に触れる場面を設定することで、定着させたい基本的な文型である。

また、「トピック指定問題」で、与えられたトピックに基づいて複数の英文を書かせる設問において、特に2文から3文の平均通過率が低かった。

11 歌手、スポーツ、食べ物など、あなたの好きなものを何か一つ選び、そのものについて、下の()に注意して英語で3文以上書きなさい。ただし、最初の文は I like に続けて書き始めなさい。

- (・すべて英語で書き、ピリオドやコンマなどの符号や大文字、小文字の使い方に注意して書くこと)
- ・同じ内容の英文を繰り返さないように書くこと)

[2年]

I like _____

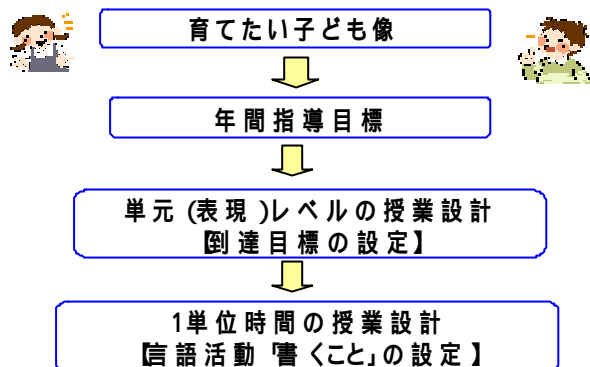
設問番号	平均通過率	
	伝達性	正確性
11 (1)	72.0%	63.3%
11 (2)	53.3%	42.9%
11 (3)	36.6%	26.4%

この設問は、身近な事柄について、自分の考えや気持ちなどをまとまりのある英文で表現する力をみるものである。書くことの活動においては、単語単位の発話や身振り手振りなどを使用したコミュニケーション活動とは異なり、正確な語順に基づく文単位の表現が求められる。そこで、基本文型の確実な定着とそれらを運用して表現できる力を身に付けさせるために、授業設計を工夫することが求められる。

その工夫例として次のようなことが考えられる。

【明確な目標設定と目標達成に向けた取組
(教科マネジメント)の例】

次の例は、目標設定のためにどのように授業を組み立てていくかを示したものである。



(清水中学校南郷美幸教諭の実践を基に作成)

このように、英語学習を通してどのような生徒を育てたいのかという生徒像を描くことから、それに基づいた年間指導計画、単元レベル、1単位時間というように逆算して授業設計を組み立てていくという考え方である。そうすることで、それぞれの単元レベルでの達成目標が明確になり、毎時間の授業もその目標へ向かった取組ができることになる。

また、具体的な到達目標を示したものとして、以下の Can-Do List の例を挙げる。

最終達成目標
□自分のことや、友人・趣味など身近なことを具体的に自分の言葉で表現できる。
学年到達目標
□身近なテーマについての1分間スピーチができる。 (3年)
□身近なテーマであれば30秒程度話すことができる。 (2年)
□自分・家族・学校生活・趣味等含めて自己紹介できる。 (1年)

(県立志布志高等学校作成の一部を掲載)

このように、学年や単元、1単位時間の授業で何ができるようになるかの明確な目標を示すことで、各段階を通した一貫性のある学習が可能になると考える。

さらに、目標達成へ向けた具体的な実践として、教科や学年全体で授業や授業外で取り組む共通実践事項を定める。

{ 授 業 } ・ 1 分間対話活動の実施

・ 小テストの実施

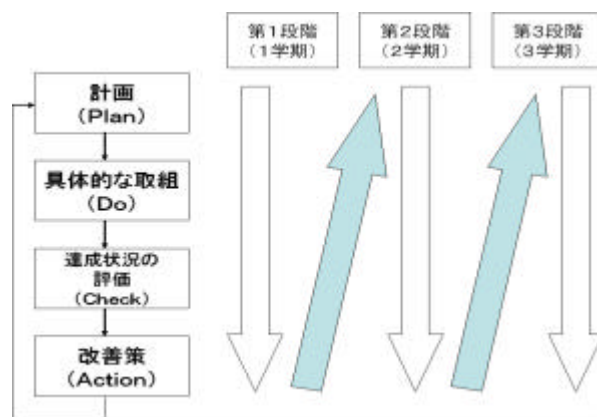
・ ワークシートの工夫

・ ペア・グループ学習の工夫

{ 授業外 } ・ 自己表現を取り入れた課題の工夫

・ 週末課題の工夫

そして、これらの取組を目標達成へ向けて立てた計画に基づき、実践し、その実践を評価し、更なる改善を図るといったマネジメント・サイクルに従って高めていくことが重要である。



これまで、二つの視点から改善策を述べたが、今後も4領域の言語活動を有機的に関連付け、基礎的・基本的な内容の定着を図る指導を繰り返し、継続して行っていくことがより一層求められる。この調査結果を基に、基礎・基本の定着へ向けた指導方法の改善に取り組むことが望まれる。(教科教育研修課)